



株式会社杉浦 全景

○本社所在地：愛知県岡崎市
合飲木町字郷東190番地1

○事業概要：自動車部品の試作・量産・
プレス加工・金型製造・
シミュレーター製造 等

○常時使用する従業員：84名
(2025年9月時点)

○現在の売上高：46.7億円
(2025年9月期)

○法人番号：3180302001543
OW e b : <http://sugiura.co>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
杉浦 彰

【サステナブル社会 創造カンパニー】の実現に向けて

当社は、自動車部品量産を中心に、品質・生産性・納期対応力を磨き続けることで成長してきました。厳しい要求水準に応え、現場で信頼を積み重ねてきたことは、私たちの誇りであり、ものづくり企業としての原点です。一方で、自動車産業はEV化や脱炭素の進展により、大きな転換期を迎えています。従来の延長線上に安定した未来はなく、だからこそ私たちは、自ら変わることを選びました。当社が掲げる【サステナブル社会 創造カンパニー】は、環境配慮にとどまらず、ものづくりの力で社会課題を解決し、成長へとつなげる実装型の挑戦です。環境インフラ、次世代モビリティ、新工法への取り組みは、現場で培った技術力と挑戦する風土があってこそ実現できます。私たちは、地域経済、地球環境、そして自社のゴーイングコンサーンという3つのサステナブルを同時に実現することを目指しています。挑戦を否定せず、学びを次につなげる企業風土を強みに、2036年に向けた成長と社会への貢献を、社員一人ひとりとともに実現してまいります。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2036年の100億円達成、その後の売上高105億円を目指し、従来の自動車部品量産を中核としつつ、【サステナブル社会創造カンパニー】へと進化する。本宣言における「成長」とは、単なる売上拡大ではなく、①自社の持続的成長、②地球環境の持続可能性への貢献、③地域産業構造の持続可能性の確立、の3つを同時に実現することである。自動車産業に強く依存してきた西三河地域において、次世代インフラ・環境技術・新工法分野への展開を通じ、地域経済の新たな成長モデルを提示することを目指す。

課題

当社は、自動車部品量産を中心に成長してきたが、産業構造の転換や環境要請の高まりを背景に、従来モデルの延長では持続的成長が困難となりつつある。2036年に向けては、外部環境の変化に耐えうる新たな成長基盤の構築が不可欠である。

- 自動車部品量産への依存度が高く、市況変動や価格転嫁の影響を受けやすい。
- EV化・CASE化により、従来型部品需要の中長期的な変化が見込まれる。
- 西三河地域は自動車産業への集中度が高く、地域経済への将来リスクを抱えている。
- 脱炭素・循環型社会への対応が製造業に強く求められている。

これらの課題に対応するため、既存事業を基盤としつつ、成長分野への多角化を進める必要がある。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

当社は、従来の自動車部品量産事業を安定収益基盤として維持・高度化しつつ、社会課題と成長性を両立する新たな事業領域へ段階的に展開することで、2036年に向けた成長を実現する。

- ① 農業残渣等を対象とした次世代焼却炉事業により、自治体等と連携した環境インフラ分野へ参入する
- ② 無人交通や高度シミュレーション技術を含む次世代モビリティ分野において、移動・検証・安全を支える新たな価値を創出する
- ③ カーボン加工をはじめとする新工法・新技術開発を推進し、製造技術を環境・インフラ・次世代産業分野へ横展開する

これら三つの成長軸を相互に連動させ、高付加価値かつ持続的な事業ポートフォリオを構築することで成長を加速させる。

実施体制

本宣言は株式会社杉浦とともに、グループ各社および外部パートナーとの連携によって推進する。自動車部品量産で培った製造・品質・工程設計の基盤を活かしつつ、分野横断型の事業体制を構築する。

- 中核会社が量産・品質・工程設計を担い、グループ各社が金型・加工・溶接・デジタル等の機能を分担する。
- 環境インフラや次世代モビリティ分野では、自治体・研究機関・企業との連携により社会実装を進める。
- 既存事業による安定収益を新分野へ再投資し、人材育成・技術開発・設備投資を段階的に実行する

企業間・事業間シナジーを最大化し、サステナブル社会創造カンパニーとしての実行力を高める。

※本宣言は企業自身がその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

売上高100億円実現に向けた目標・課題および具体的措置【サステナブル社会 創造カンパニー】の実現に向けて

1. 売上高100億円実現の実現目標

当社は、2036年に売上高100億円規模の企業へ成長することを目標とする。その実現に向け、従来の自動車部品量産事業を中核としつつ、環境インフラ、次世代モビリティ、新工法・新技術といった新分野を段階的に確立し、事業ポートフォリオの高度化を図る。本宣言における成長とは、単なる売上拡大ではなく、以下、「3つのSustainable」の同時実現である。

3つの Sustainable

- ① 自社のゴーイングコンサーンの確立
- ② 地球環境の持続可能性への貢献
- ③ 西三河地域における産業構造の持続可能性の確立

3. 売上高100億円実現に向けた具体的措置

新分野において他社に先駆けた革新性を確立し、アーリーイノベーターとして機能し、市場を先行的に獲得する戦略を採用する。

(1) 次世代焼却炉事業

農業残渣等を対象とした環境インフラ分野において、自治体等と連携し、社会実装を前提としたモデル構築を行う。実証・初期導入段階で技術的優位性を早期に確立する。

(2) 次世代モビリティ事業

無人交通インフラや高度ドライブシミュレーション分野において、移動・検証・安全を支える新たな価値を提供する。

(3) 新工法・新技術開発

カーボン加工等の新技術を開発し、次世代産業分野へ製造技術を横展開する。

これら新分野で得られる試作・実証・少量生産データを量産技術へフィードバックし、最終的には量産部門への仕事誘引と生産性向上につなげる「**開発・量産 循環型成長モデル**」を構築する。

2. 売上高100億円実現に向けた課題

自動車部品量産分野で培った生産力と品質対応力を強みとしてきた一方で、特定産業への依存度が高く、市況変動や価格転嫁の影響を受けやすい構造を抱えている。

- ・自動車産業のEV・CASEにより、従来型部品需要の中長期的に変化する
- ・西三河地域は自動車関連産業への集中度が高く、産業構造転換の遅れが地域経済リスクとなり得る
- ・脱炭素・循環型社会への移行に伴い、製造業には環境対応と社会課題解決が強く求められている

これらの課題に対応するためには、既存事業の高度化に加え、新分野を計画的に育成する成長戦略が不可欠である。

4. 事業実施体制

あくまでも本宣言は株式会社杉浦が単独で100億円を目指すものであるが、完全子会社とのシナジー効果を発揮して対応していく。研究開発を行うアーリーイノベーター(EI)機能と、その成果を量産に繋げ事業規模を拡大するスケールファクトリー(SF)機能の2機能を各社で対応していく。

領域	機能	杉浦（当社）	杉浦テック	エスケージー	ウエルド
EI	自動車試作			●	
	新 技術開発	●	●	●	
	新 次世代焼却炉	●			●
	新 次世代モビリティ	●	●	●	
		↑	↓		
SF	量産対応	●			●
	治具・設備製造		●		